

令和5年度 事業報告

事業報告

1. 事業

(1) 普及啓発

(イ) キャンペーン

がん征圧月間、結核予防週間、がん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン時にあわせ、食生活・生活習慣の見直しや検診の重要性を訴える活動を展開した。

・やまがた健康フェアは9/23・24に天童市のイオンモール天童で開催され、ブース出展し健康情報の発信と、無料骨密度測定を47名に実施した。

・自治体等が主催する地域のイベント等へ協力・参画した。

・広報媒体物の無料貸し出し（DVD、模型、パネル、測定機器等）

・ノベルティ配布

(ハ) 健康機関誌等の作成、配布

・機関誌「しあわせ」の発行（年2回）

がん・結核の知識とその予防方法などを収録し、県や市町村、婦人団体等を通じて広く県民に配布した。

・各種チラシ、パンフレットの作成、配布

禁煙教育パンフレットを作成し、市町村、事業所、学校等のほか、検診の受診者に配布した。

(ニ) 健康づくり組織活動

・山形県結核成人病予防婦人団体連絡協議会

令和5年度は「東北地区結核予防婦人団体幹部研修会」を山形県にて開催し、同団体の活動支援を行った。

(ホ) その他の普及啓発

・会議、研修会の開催や講演会等へ、保健師、管理栄養士、運動指導士を派遣し普及啓発を行った。

(2) 各種検診の実施、二次予防の推進

検診の申し込みの取り纏めから、問診票発送、検診、結果送付、保健指導（健康相談）、精密検査受診勧奨まで、疾病の早期発見、早期治療につながる一連の検診サービスを提供し、県内5ヶ所の検診センターにおいては、施設や施設外では13台の検診車を活用し、離島やへき地のほか、検診機関に足を運ぶことが困難な社会的弱者を対象とした社会福祉施設検診を含め、不特定多数の県民を対象に健康診断を実施した。

(イ) 検診事業

・県内の地域住民や職域職員を対象に健康診断を実施した。

1) 特定健康診査	52,492件
2) 人間ドック	33,201件
3) 全けんぽ協健診	36,672件
4) 定期健康診断	65,651件
5) 胃がん検診	84,588件
6) 大腸がん検診	129,954件
7) 子宮頸がん検診	33,045件
8) 乳がん検診	32,551件
9) 肺がん検診	86,566件
10) 結核検診	104,252件
11) 腹部超音波検査	30,348件
12) 学校検診	31,764件

- 13) 前立腺がん検診 19,314 件
- 14) 骨密度測定 9,176 件
- 15) 肝炎ウイルス検診 2,829 件

(ロ) 事後管理

・検診結果には過去分も含めて表示し、体調の変化が分かり易いように通知。検診と健康相談の同日実施や結果に基づく食生活・生活習慣改善等の指導のほか、精密検査の受診勧奨を行った。

- 1) 検診結果の通知
- 2) 保健指導（事後指導）、健康相談
- 3) 精密検査の受診勧奨

(3) 資料収集（検診データの有効活用）・調査研究協力

当法人は、予防医療のレベル向上や健康づくり施策に役立つデータを活用することで公衆衛生の向上に寄与することを目的に、述べ約400万件の膨大な検診データを収集・蓄積している。同データを、県や市町村へ無償提供するほか、学会や検診委員会での報告等を通じて地域医療のレベルの向上に努めた。

(イ) データ収集

・調査研究等に活用するため、7年分の検診データを蓄積。

[検診データ7年分]

- 1) 総合健診 約 1,372,000 件
- 2) 胃がん検診 約 630,300 件
- 3) 大腸がん検診 約 908,600 件
- 4) 子宮頸がん検診 約 251,900 件
- 5) 乳がん検診 約 245,300 件
- 6) 肺がん検診 約 607,400 件
- 合計 約 4,015,500 件

(ロ) データ提供等

・「事業年報」の発刊

地域の疾病構造を明らかにし、県民の健康づくり施策に有効活用してもらうため、「事業年報」を作成し、県、市町村、関係機関等へデータの提供を行った。

・経年的データの提供

経年的データを4機関へ提供した。

- 1) 日本乳がん検診学会 「乳癌検診の全国集計」
- 2) 日本消化器がん検診学会 「消化器がん検診実態調査」
- 3) 山形県 「がん検診実施状況調査」「がん検診成績」「胃がん検診偶発症調査」
- 4) 山形県医師会 「各医師会との打ち合わせ会資料」

(ハ) 調査研究協力

・40歳代の乳がん発見の調査研究協力（厚生労働省化学研究費による第3次対がん戦略研究事業）

乳がんの早期発見・早期治療を推進するため、超音波検査の有効性を検証するための比較実験に対して協力し、研究対象者の追跡調査を行い、要請に基づき研究機関へ報告した。

(ニ) 学会発表、講演、講話

・当法人に蓄積された検診データを活用し、学会等において論文等を発表し、検診精度の向上と職員のスキルアップに努めた。

1) 日本消化器がん検診学会東北支部超音波検診委員会第16回東北セミナー

「当機構における膵管拡張所見の取扱い」

臨床検査技師

2) 第40回東北地区集検放射線技術部会研修会及び総会

「胃がん検診における偶発症発生状況について」

放射線技師

3) 第4回日本緩和医療学会東北支部学術大会

「医療機関に属さないがん相談員の過去3年間の自己評価分析」

看護師

・様々な講演会等で、当法人の医師、保健師、管理栄養士、運動指導士が蓄積された検診データを

活用し講演講話を行い、広く県民の健康づくりの意識高揚に努めた。

(4) がん総合相談支援事業

(イ) ピアサポート活動の推進

県民や医療関係者などの理解を深めるために、ピアサポートセミナーの開催や、医療機関や患者会等と連携し、ピアサポーターの派遣及び活動場所の紹介等を行うなどの活動支援のほか、先進地視察やピアサポーター交流会を開催するなど、情報交換の機会を提供するなど、ピアサポーターの養成及び活動支援を行った。

・ピアサポーター養成事業

1) 研修会 7/9、11/12開催

2) 講座 8/6、9/3開催

・がんサロンの開催

1) がんサロン : 8回開催

2) がんサロンへのピアサポーター派遣 : 15回(述べ27人)

(ロ) がん相談

県内(山形、庄内、最上、米沢、南陽)5つの検診センターを活用し、「がん」かもしれないと不安を感じた時から、医療や就労などの様々な悩みについて気軽に相談できる窓口を設置し、病院では相談しにくい問題を抱えるがん患者やその家族などの不安の軽減に努めた。

・窓口相談・電話相談(計204件)

1) 山形検診センター 167件

2) 庄内検診センター 14件

3) 最上検診センター 12件

4) 米沢検診センター 2件

5) 南陽検診センター 9件

・出張相談

1) イオンモール天童(やまがた健康フェア) (9/23~24)

2) イオンモール三川(いきいき健康フェア) (10/14)

・相談員(職員)のスキルアップ及び養成

1) 所長(医師)によるカンファレンスを月1回実施

2) 地域相談支援フォーラム in 宮城へ参加

3) 日本がん看護学会学術集会へ参加

4) 県内外の他サロンとの情報交換、現地視察(宮城県がん総合支援センター、庄内からだ館、石巻日和

山カフェ、日本海総合病院、がん対策推進総合研究事業研究班)

(ハ) その他関連する業務

がん総合相談支援センターの事業内容等を広く県民に知らせる広報を行うとともに、県内に設置しているが

ん相談支援センターと連携し、がん相談窓口の周知を行うなど、市町村広報誌や報道機関への情報提供等により業務内容を広く周知した。

・周知（掲載等）方法

- 1) 市町報（12市町）（34回）
- 2) 各地区フリーマガジン聞（5回）

2. 財源

・いずれの事業も、経常収益（基本財産運用益、特定資産運用益、検診事業収益、受託料収益、受取補助金、受取寄付金、雑収益）を財源としている。

なお、山形県から受託している「がん総合相談支援事業」及び「若者に対するがん予防支援事業」は受託料収益（委託金）、「女性の為の休日検診支援事業」は受取補助金（受取地方公共団体補助金）を財源としている。

また、普及啓発事業全般は、受取寄付金（募金収益）を財源とし、表彰に関しては「大平賞・熱海賞及び岸賞」基金を財源として行うこととしている。

3. 外部委託

・検診事業のうち、血液検査分析に係る業務のうち、一部施設内で分析できない検査項目のほか、所外検診で実施した血液検査を分析業者に、また、X線フィルム、眼底フィルム、心電図等の読影判定業務の一部を社団法人山形県医師会に委託している。

・検診結果処理の正確性と迅速性を確保するため、各種結果帳票の印刷、封入封緘業務等を印刷業者に委託している。